



京都切り絵歳時記

月刊

あじえんだ 4月

みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信

月刊あじえんだは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

2006年



事務所 〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター2F 活動支援室内
TEL: 075-647-3535 FAX: 075-647-3536
E-mail: ma21f@mbx.kyoto-inet.or.jp

事務局 〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る
京都市環境局地球温暖化対策課内
TEL: 075-222-4037 FAX: 075-222-4039

KES認証事業部 〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2
京都工業会館2F TEL/FAX: 075-323-6686
E-mail: kesma21f@mbx.kyoto-inet.or.jp

<ホームページ> <http://ma21f.web.infoseek.co.jp/>

第3回全国リユース食器フォーラムを開催しました（報告）3月3日（金）～4日（土）

第3回目のリユース食器フォーラムを京都で開催しました。このフォーラムは、毎年、「全国リユース食器ネットワーク」（全国各地でリユース食器利用の推進を目指し、具体的な活動を行うNGO/NPOや自治体からなるネットワーク組織：<http://www.reuse-network.jp/index.html>）のメンバーが中心となって開催しています。今回のフォーラムではリユース食器※を利用して、ごみ減量や地球温暖化防止に取り組む全国各地の団体や個人が集まり、二日間にわたって情報交換や課題解決に向けた議論を行いました。えこまわりワーキンググループ（WG）では、この事業を本年度の活動の中心に位置付け、昨年から時間をかけて企画を練ってきました。

●1日目

京エコロジーセンターで開催。主な参加対象者は「全国リユース食器ネットワーク」のメンバーでした。

◇第1部 オープニングセッション

各地域でリユース食器利用の普及啓発をしている16団体から、それぞれの取組を発表していただきました。

◇第2部 テーマセッション

多くの団体が共通して課題としている「食器の回収方法」と「洗浄方法などの衛生面」について白熱した議論を展開しました。今すぐに結論が出る問題ではありませんが、それぞれの経験を情報交換することで、課題の解決に向けて大きな一歩を踏

み出すことができることを感じ、ネットワークの有効性を参加者一同が再確認しました。

その後、会場を京都三条ラジオカフェに移し、懇親会を開催。オーガニック料理は全国の方々に大変好評でした。

●2日目

一般参加者も対象に、エコホテル（熱心に環境問題への取組を行っているホテル）として有名な京都ホテルオークラで開催。

◇第3部 パネルディスカッション

リユース食器利用の普及のための、NGO/NPO・行政・企業のパートナーシップのあり方について議論を行いました。

◇第4部 分科会

第3部の議論を受けて、「まちなかでリユース！～アミューズメント施設での利用」と「パートナーシップで広がるリユース！～行政や企業との連携を例に」の2つの分科会に参加者が分かれて、それぞれ各地の取組の情報・意見交換と課題の解決に向けた議論を行いました。

今回、全国から、また地元京都から、のべ110名とたくさんの方々に参加いただくことができました。2日間を通し感じたことは、全国で同じビジョンを持った仲間たちがこんなにもたくさんいるという心強さです。リユース食器利用の普及にはまだまだ課題はたくさんありますが、このフォーラムをきっかけに、さらに活動の輪を広げられればと思います。

※リユース食器：使い捨てではなく、洗ってまた使える食器。

京都市主催「環境先進自治体会議」にて「循環型のまちづくり～脱・使い捨て宣言～」を実施 2月17日（金）

「環境先進自治体会議」において、当フォーラムは京都市と、分科会「循環型のまちづくり～脱・使い捨て宣言～」を共催しました。企画は当フォーラムのえこまわりワーキンググループ（WG）が担当しました。

お祭りやイベントなどにおける環境対策、特にリユース食器を利用した取組事例の紹介と、「リユース食器の現在・未来」と題したパネルディスカッションの2部構成で行いました。

地球・人間環境フォーラムの平野喬氏からは、日本全国のサッカー場やドイツで、リユース食器で飲み物を提供するという先進的な事例を、横浜市資源循環局の榛澤（はんざわ）俊成氏からは、横浜市のごみ減量の取組を報告いただきました。また、えこまわりWGの山本みか氏からは、WGの取組報告が行われました。

そして、コメンテーターの内藤正明氏（当フォーラム代表、NPO法人循環共生システム研究所代表）が、循環型のまちづくりに関する情報を提供し、各パネラーに質問を行い、白熱した議論が繰り広げられました。

ディスカッションの中では、リユース食器利用で生じるコストを誰が負担するのかという問題や、衛生面での問題が課題としてあげられました。課題解決に向けて、全国でリユース食器利用に取り組む団体同士が、情報交換や調査研究を行っていくことが必要だということを確認しました。また、リユース食器利用のさらなる普及には、NPO/NGO・行政・企業の垣根を越えたパートナーシップが重要であるという意見が出されました。

「京都エコツアー2006早春編」を開催（報告）2月18日（土）

（主催：京のアジェンダ21フォーラム 協力：全国自転車ネットワーク準備委員会）

2月18日に、京都議定書発効一周年記念事業として、「京都エコツアー2006早春編」を開催しました。環境問題に取り組んでいる施設や観光名所を組み合わせ市内3コース（まちなか、伏見、醍醐）を、自転車やコミュニティバスなどの公共交通を利用して巡りました。

当日は寒空にもかかわらず、遠くは神奈川県や石川県などから、20代から80代まで幅広い年齢の方々28名にご参加いただくことができました。環境問題に取り組んでおられる訪問先のうち、4つの団体・店舗に活動の説明をしていただきました。また参加者が安全に走行できるようサポートするガイドスタッフとして、9名の方々がお手伝いくださいました。

【参加者の感想】

・自分の体を動かすツアーは初めての経験でしたが、楽しくて爽

快でした。

・このツアーがきっかけとなり、各地での環境問題への取組が広がることを期待します。

・おひさま発電、お醤油屋さん、酒屋さんでのお話はとても貴重な経験でした。

・語り手（訪問先で対応してくださった方）に熱があり個性があり、気持ちよかったです。

参加者の皆さんからは、以上のような感想をいただき、概ね好評のうちに終えることができました。

ご参加くださった皆さん、お忙しい中見学させていただいた訪問先の皆さん、ガイドスタッフの皆さんに御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

Agenda
Forum

4月の

ミーティングと
主催行事の予定

4月5日（水）18:30～ エコミュージアムWG会議 洛西境谷会館第二会議室

4月7日（金）10:00～ エコツーリズムWG会議 職員会館かもがわ1階第一会議室

平成17年度 第3回環境活動交流会（報告） 2月12日（日）開催

「愛を感じる旅をしよう ～京都におけるエコツーリズム～」

（主催：京エコロジーセンター 協力：京のアジェンダ21フォーラム）

2月12日開催のシンポジウム「愛を感じる旅をしよう～京都におけるエコツーリズム～」には、50名の参加がありました。

基調講演では宗田好史先生（京都府立大学人間環境学部助教授）から、「京都市内のエコツーリズムとは、年間約4500万人訪れる観光客の旅のあり方を、どのようにエコツーリズム※に変えていくかという議論である。一方、京都府北部などのエコツーリズムは、観光客を新たに呼び込むための議論で、両者は違う考え方である」とお話しされたことが印象的でした。

パネルディスカッションでは、高田光治氏（（財）京都ユースホステル協会）が司会を行い、パネラーの下村委津子氏（京都グリーン購入ネットワーク）、宮脇健氏（（株）京都ホテル）、十倉（エコツーリズムワーキンググループ（WG））が、それぞれの団体における環境への取組について紹介し、それをもとにして京都におけるエコツーリズムについて充実した議論が行われました。

参加者アンケートには、「ぜひこのような会を継続して開いてほしい」、「複数の立場から話を深く聞けて大変新鮮で勉強になった」といった共感、応援のほか、「京都における観光客の多くが中高年の女性であり、リピーターが多く、自分へのお土産を買って帰るという面白い情報が聞けて楽しかった」という

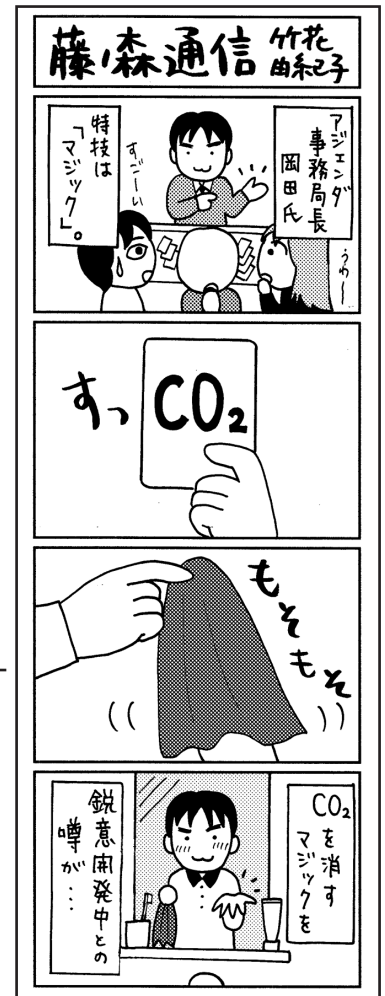
ような感想もありました。

また企業からの参加者は「今後の企業の責任を感じ、環境に対する取組を改めて考えていきます」といった意見もくんだり、心強く思いました。

京都市内でエコツーリズムの話題を、気楽に皆で語り合える場がもっと増えればと思っています。そのためにエコツーリズムWGがある、と気持ちが引き締まりました。

※エコツーリズム：訪問先の環境を傷つけることなく、その土地特有の自然・生活文化などの資源を持続させていくような旅を表す概念

（エコツーリズムWG コーディネーター 十倉真未子）



大原野森林公園自然観察ガイドマップ完成

大原野森林公園の魅力的な動植物などの自然を紹介する「大原野森林公園自然観察ガイドマップ」が3月に完成しました。このガイドマップは、公園の利活用に役立てることを目的に、大原野森林公園運営管理協会が発行しました。公園周辺で活動する自然保護団体の方々の資料提供をもとに、立命館大学景観計画研究室が原案を制作し、当フォーラムエコミュージアムWGが編集しました。

ガイドマップの内容としては、その季節に楽しめる植物、昆虫などがひと目でわかるように、写真を豊富に掲載し、春、夏、秋の季節別にまとめました。また、足場が悪いので登山靴を履くなど、安全のための心構えをまとめるとともに、じっくり見ながら歩くといった、この公園を楽しむコツを「森の案内人（※）のとしておき」として掲載し、初めて公園に来られた方も、安全で楽しく公園を散策していただけるようにしました。

なおこのガイドマップ作成にあたり、財団法人京都オムロン地域協力基金からご支援をいただきました。

※森の案内人：大原野森林公園で活躍する「人と自然の橋渡し」役。散策コース上で動植物など見所の案内や、来園者へのマナー啓発などを行っています。

仕様：A3両面カラー
蛇腹二ツ折
再生コート紙
春・夏・秋の3種類

部数：各1000部

配布方法：下記配布場所で無料配布

配布場所：

大原野森林公園森の案内所（京都市西京区大原野石作町1754）
フォーラム事務所（表面右肩参照）

< KES 認証事業部より > ★ 2月の新規認証取得 2006年3月1日登録分

※確認審査合格企業の詳細については、ホームページ (<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kesma21f/index.htm>) をご参照ください。

●ステップ1

- KES1-0391 株式会社高橋工務店（京都市北区）
- KES1-0392 庚申建物管理株式会社（京都市南区）
- KES1-0393 株式会社和田利工業（京都市右京区）
- KES1-0394 有限会社小林工務店（京都市中京区）
- KES1-0395 京都市上下水道局営業所グループ（京都市東山区）
東山営業所・北営業所・右京営業所・西京営業所
左京営業所・伏見営業所
- KES1-0396 株式会社近藤建設（京都市中京区）
- KES1-0397 株式会社タンゴ技研 京都府京丹後市
- KES1-0398 荻野精工株式会社（京都府京丹後市）
- KES1-0399 株式会社大宮日進（京都府京丹後市）
- KES1-0400 株式会社峰山鉄工所（京都府京丹後市）
- KES1-0401 株式会社草城製作所（京都府京丹後市）
- KES1-0402 ケイコン株式会社（京都市伏見区）
- KES1-0403 ニコム測器株式会社（兵庫県赤穂郡上郡町）
- KES1-0404 株式会社松浦建設 株式会社松浦建設
大東工業株式会社（京都市右京区）

●ステップ2

- KES2-0199 株式会社大日本精機（京都府長岡京市）
- KES2-0200 村角株式会社（大阪市北区）
- KES2-0201 井上鉄工（滋賀県草津市）
- KES2-0202 三和工業用品株式会社（京都府舞鶴市）

- KES2-0203 有限会社新栄電化（京都府向日市）
- KES2-0204 東洋紙業株式会社 東京本社・品川工場（東京都品川区）、
横浜工場（神奈川県大和市）、習志野工場（千葉県習志野市）
- KES2-0205 パワード有限会社（大阪市西区）
- KES2-0206 東輝産業株式会社 本社（大阪市西区）
阪和営業所（大阪府泉大津市）
- KES2-0207 竹中エンジニアリング株式会社（京都市山科区）
- KES2-0208 株式会社大阪広業社（大阪市北区）
- KES2-0209 オプテックス・エフエー株式会社（京都市山科区）
- KES2-0210 京都和光純薬株式会社 本社・京都営業所（京都市南区）、
栗東営業所（滋賀県栗東市）、奈良営業所（奈良県橿原市）
- KES2-0211 株式会社エルコム 営業所（京都府向日市）
本店・工場（京都府亀岡市）
- KES2-0212 京都E I C株式会社（京都府久世郡久御山町）
- KES2-0213 株式会社一ノ木技研
坂本工場・伊香立工場・真野工場（滋賀県大津市）
- KES2-0214 株式会社和久屋（大阪市西区）
- KES2-0215 中国ケミー株式会社（広島県東広島市）
岩国営業所（山口県岩国市）、
小郡営業所（山口県小郡町）
- KES2-0216 株式会社淀川ACC（愛知県一宮市）
- KES2-0217 株式会社幸和電熱計器（大阪市東成区）

事務局短信

新事務局体制になって早1年がたちました。手探り状態の1年でしたが皆様のおかげでなんとか乗り切ることができました。引き続きご指導ご鞭撻のほど。（滋野浩毅）／京都在住8年目にして初めて北野天満宮の梅を見ることができました。今年は寒波で梅の開花が随分遅れたようですが、その分、早咲き、中咲きが一気に開花していき、様々な梅の花色と香りを楽しめました。（竹村光世）／人との軋轢で問題になっていた大津市のニホンザル13頭が殺されることになりました。住民は大変困っておられるので何らかの対策は必要ですが、もともと研究や観光目的の餌付けが原因だったことを考えると、原因をつくった人間が責任をとらずにサルを殺して終わりにするという発想は私には恐ろしいです。（小山直美）／

第10回（最終回） 戦略検討委員会報告

●戦略検討委員会設置の経緯

京都議定書の発効、京都市地球温暖化対策条例の施行などにもなう新たな動きや、内外の変化が生じてきている中で、改めて、フォーラムの目的、組織、活動および運営に関わる全ての分野を対象に、徹底した検討を行っていくこととなりました。

そこで戦略検討委員会が昨年9月の第3回幹事会・第2回常任幹事会合同会議にて、幹事会直属のプロジェクトチームとして発足しました。これまで2回の戦略会議設立準備会を含む12回の会合を開催し、当フォーラムの活動全般（資金面、推進体制、ワーキンググループ等の活動、広報など）に関して協議・検討を進めてきました。

3月14日（火）にひと・まち交流館 京都にて開催された、最終となる第10回戦略検討委員会では、これまでの議論をとりまとめ、幹事会に報告する「戦略検討委員会報告（案）」（以降「報告案」）についての最終調整を行いました。

「報告案」では、フォーラムの役割、ミッション（使命）、機能についての議論を踏まえて、フォーラム改革のプログラムが提案されました。

【フォーラム改革のプログラム（中期的）】

フォーラム改革のプログラムでは、（1）幹事会での事務案件の処理量を大幅に減らし、幹事会の主要な機能を「円卓会議」とする、（2）常任幹事会をフォーラムが行う事業・活動の企画・調整および評価を行う「フォーラム企画会議」として位置づける、（3）ワーキンググループ（WG）の再編を行い数を半数程度に減らすとともに、WG内で進められている事業指向の取組はタスクチーム、プロジェクトチームとする（4）フォーラムの機能と活動を京都市の政策に結びつけるために、京都市の庁内各部局との連絡調整会議機能を設ける。（5）広報を充実させる、といったようなことが提案されました。

また上の改革プログラムの中で、平成18年度から早急に着手すべきと思われる短期的な取組を「フォーラム改革プラン2006」として、ワーキンググループの再編に向けた検討や、事務所や事務局業務の改善、事務所の移転を行うことが提案されています。

コーディネーターの山田章博氏が、今回の議論や、参加できなかった委員からの意見を「報告案」に反映させ、3月28日開催の平成17年度第6回幹事会・第5回常任幹事会合同会議に報告されます。事務局では「報告案」に基づいた次年度の事業計画案を作成し、承認を得る予定です。

最後になりましたが、コーディネーター及び戦略検討委員の皆様、半年間ありがとうございました。紙面を借りて御礼申し上げます。